

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

全国各地から春の訪れを知らせる便りが届く。気象庁では、全国の気象官署で統一した基準により、「うめ・さくら」の開花した日、

「かえで・いちよう」が紅(黄)葉した日などの植物季節観測や、「うぐいす・あぶらぜみ」の鳴き声を初めて聞いた日、「つばめ・ほたる」を初めて見た日などの動物季節観測を行い、「生物季節風観測の情報」を発表している。春を告げる開花や鳥の初鳴きが、平年よりかなり早い傾向にあるようだ。ウグイスの初鳴きが過去最も早く、タンポポも1カ月以上早い開花など、あまりに早い春は、気候変動の今後が気になってしまう。

世界規模で感染拡大する新型コロナウイルス。国民皆保険は、日本では当たり前だが、諸外国の医療水準は異なっている事が今回の感染拡大で分かった。オリンピック開催決定に重要な発言力を持つアメリカ。いまだに無保険者も多く、所得に

世界規模の感染で医療水準の大切さを知る

より受けられる医療機関に限られる、など医療格差の顕著な国だ。日本に住んでいれば、国民誰もが保険証1枚で医療機関を受診できる制度の大切さを噛みしめる。だが世界経済では、感染症への不安から投資マネーの逃避が加速、NY株は、史上最大の下げ幅で取引の一時停止が発動を重なるなど市場は大混乱だ。年金原資が大打撃を受けて、今後の年金を心配する声も聞えてくる。

朝のニュース番組でも、積極的に新型コロナウイルスを取り上げた放送局の視聴率が好調で、各局競い合って情報を伝える異常な状況だ。多くの情報の中で観光地「京都」の話が気になる。中国人の消えた京都に日本人が殺到。「スイてます嵐山」・「これこそ本来の京都の姿」など、苦境を逆手に取り、外国人観光客の急増に押されて減少傾向にあった日本人観光客の呼び戻しの戦略だ。どこかの国からの観光客が消えても、観光地としての魅力を磨いていけば、必ずリカバリーできる教訓なのだろう。本音が見えにくいと言われる京都人から、聞こえてくる本音は、「観光は水もの」・「中国の影響は、ほんまに大きいな」・「お金を使ってくる高齢者が減った」・「急落する宿泊料



道端に咲く福寿草、花が持つ温かさが強く伝わってくる

で破格千円」。京都の夏の風物詩、祇園祭。千年以上続く祭事で、疫病退散を祈願するものだ。祇園祭の頃には、現代の疫病が終息して、京都弁が粋に聞こえる「いつもの京都」にと願うばかりだ。(NPO法人信州地域社会フォーラム会員)